

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2024年度	開講キャンパス		開講キャンパス	開設学科		子ども教育学科				
科目名称		子ども教育専門ゼミ I				授業形態		講義				
科目コード		750114	単位数		2単位	配当学年		3	実務経験教員		○	
担当教員名		若宮 邦彦									ICT活用	○
授業概要		<p>この授業の目的はソーシャルワーク(社会福祉)の観点から現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助についての学びを深めることです。子どもの成長や発達を援助していくためには、子ども自身を理解するのみではなく、家庭環境や地域社会について理解しておくことが重要となります。このゼミでは、現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助に関する文献を学生自身が収集し、内容を理解し、発表・討論を行います。</p> <p>また、フィールドワークを活用し、学生自身が児童福祉の現状や課題についてより深く考えること、また児童福祉の研究方法について理解し、研究の実施・まとめ方・発表の方法について学ぶことにより課題探求能力を高ていきます。</p>										
関連する科目		社会福祉、社会的養護 I、子育て支援、子ども家庭福祉を履修しておくことが望ましい。										
授業の進め方と方法		<p>アクティブラーニング型授業を展開します。1回の授業の構成は下記の通りです。前半では学生自身が児童福祉の現状や課題について、より深く考察するための課題探求能力を高めます。また、クライアントとの有効な援助関係の成立を基盤に子育て支援、権利擁護を主眼とした保育実践におけるソーシャルワーク理論とスキルを習得します。</p> <p>さらに後半では事例検討やフィールドワークを通じ、前半から中盤の学びを深め、理論知を実践知に関連付けながら理解します。</p>										
授業計画【第1回】		オリエンテーション、履修指導										
授業計画【第2回】		各自の関心の整理と共有化。 ソーシャルワークに関する理解の再考、自らの問題意識を確認します。										
授業計画【第3回】		各自の関心の整理と文献検索 アカデミック・スキルの基本を再確認します。								研究の視座をふまえ、		
授業計画【第4回】		共有文献の設定 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握します。										
授業計画【第5回】		報告と討論① フィールドワークの準備。 アカデミック・ライティングの基本スキルをモニタリングします。										
授業計画【第6回】		報告と討論② 共有文献の要約・課題となったレポート作成について議論し、課題と改善の見通しをつかみます。										
授業計画【第7回】		報告と討論③ 個々のレポートを相互に確認し、学びを深めます。 レポートの体裁、アカデミックライティングの再考します。										
授業計画【第8回】		報告と討論④ フィールドワークの企画・準備・目的設定を踏まえた議論。										
授業計画【第9回】		ふりかえりと中間のまとめ 意識を共有化し文献・論文レビューならびに関連するフィールドワークにおける体験を議論して学びを深めます。								各自の問題		
授業計画【第10回】		各自の問題意識の整理と課題の検討。 各自の問題意識の整理を通じ、研究テーマの設定について考察します。										

授業計画 【第11回】	文献、先行研究の収集と整理① 4年生卒業研究中間発表会への参加を通じ抄録作成・プレゼンテーションについての学びを深めます。
授業計画 【第12回】	文献、先行研究の収集と整理② 自らが設定した研究テーマに関連する論文・資料・著書等を収集しレビューをしながら総論と各論の整理、臨床の現場の具体的内容について学びます。
授業計画 【第13回】	ディスカッション（1）解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解します。
授業計画 【第14回】	各自の課題に沿った報告と討論① メンバーのプレゼンテーションについての意見交換、質問をしながら学びを深めます。
授業計画 【第15回】	学びの総括 最終プレゼンテーションを展開し、抄録作成、PP資料の有効活用、アカデミックスキルのモニタリングを行います。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	